



○入院する病院の医療者にお願いしたいこと

- 病状や入院期間等の説明の際、入院中の学習の仕方についても本人や保護者と相談する。

【病院に院内学級がある場合】

入院中は治療と教育が同時に受けられることを説明し、本人や保護者の学習に対する不安を軽減できるとよいです。院内学級の詳しい内容については、院内学級の教員に任せればよいですが、そのためにも医療者は本人や保護者と院内学級の教員との間の懸け橋になれるとよいです。

※本人や保護者によっては、院内学級への転校を望まない場合があります。そんな場合、籍を移さずに部分的ではありますが学習支援が受けられる方法もありますので、その方法を院内学級や原籍校の教員が本人や保護者に説明できる場の設定等に協力できるとよいです。

【病院に院内学級がない場合】

入院中の学習方法について原籍校の教員の質問に、医療者として積極的に答えることができるとよいです。そのためにも、保護者を通して医療者への連絡方法等を原籍校の教員に伝えておくと、原籍校の教員も医療者に連絡し易くなり、本人の学習支援につながります。

- 入院中の治療をスムーズに進めるのに関係者の共通理解が必要な時には共通理解の場を設定する。

（本人、保護者、原籍校や院内学級の教員、医師、看護師、保育士等）

本人の情報を医療面ばかりではなく、学校生活の様子や家庭での様子等多方面から集め、関係者が共通理解することで、今後の入院治療に良い影響を及ぼすことが考えられます。そのためにも、原籍校や院内学級の教員と協力して連携会議を開くとよいです。

例えば、医療者が治療にあたる際、本人とのコミュニケーションは大切だと思います。そんな時に本人の学校での様子や得意なこと等の情報を医療者が得ていれば、それを話のきっかけとして、本人とのコミュニケーションがうまくとれるようになり、治療に良い影響を及ぼす場合も考えられます。

また、関係者が一堂に会しておくことにより、その後の支援において、何か困った時に誰と連携すればよいかを確認することができます。一度、顔を合わせているかないかで、その後の支援や連携が大きく変わってくる場合があります。